一宮市国際交流協会ニュース第64号　2013.7

かけはし

iia
ichinomiya
international
association

フランス国立スポーツ体育研究所

トレビーゾ市内柔道場

フランス女子ナショナルチームのメンバーと

たくさんの人々との出逢いは、宝物になりました。

JUDOは世界共通語！

今年３月、一宮市にある大成中学校女子柔道部の３年生がフランスとイタリアに柔道研修に行きました。フランスは柔道人口世界一と云われる程の柔道大国、フランスのジュニア世代が集まった合同練習会に参加しました。イタリアでは友好都市となったばかりのトレビーゾ市を訪問、たくさんの子どもたちと交流の絆を深めて帰ってきました。（雲谷斎）

→関連記事　「地球あっちこっち」

「寺子屋いちみん」始まる！

木曽川公民館　5.20

日本語を母国語としない日本語教育が必要な外国人の児童・生徒を対象に、放課後の時間を利用して、宿題指導や日本語学習を支援し、子供たちの居場所づくりのサポートもするという支援教室が始まりました。対象者は小学４年生から高校生までです。

その第１回目は５月20日午後５時から６時30分まで木曽川公民館集会室で行われました。当日の参加者は5名で、児童・生徒一人ひとりをマンツーマンで教えます。

皆さん最初は緊張していましたが、だんだん先生と打ち解けてきて、表情が生き生きしてきました。このまま継続できれば、子ども達にとって、きっと良い教室になるだろうなと思いました。

先生を務めるのは、協会ボランティアの日本語ひろばジュニアの方々で、当日はこの教室を管理する高取明さんとジュニア代表の加藤玲子さん、本事業に協力していただけることになった岐阜聖徳学園大学教育学部講師の中島葉子さんとその学生の安達みなさんと山内美保さんでした。

参加したみなさんの感想です。

K君「少し間違えたが、楽しかった」
Gさん「楽しかった。星座の話もした」
Kさん「勉強以外の話もできて、楽しかった」
安達さん「教えていて楽しかった」
山内さん「英語を交えると、意味が通じた」

その後、登録生徒数が14名とだんだん盛況になったので、６月10日再度訪問しました。みなさん真剣ですが、時々笑い声も聞こえます。生徒の国籍はフィリピン８名、ペルー４名、中国１名、韓国１名で、男子８名、女子６名です。

参加者が約３倍にも増えたのは、子どもの親同士で「寺子屋いちみん」のうわさが拡がったことが原因のようです。協会事務局の話によると、友だちの子どもが「宿題がよくわかったよ！」と言って教室から帰ってきた話を聞いて、私の子どもも教室に行かせたいと申し込みに来た親がいたそうです。日本語がよくわからない母親にとって、子どもが宿題をやってきたということは大きな喜びだったようです。

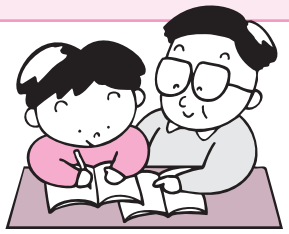
これからは子どもたちの学校の先生方との協力も得て、地域で子どもたちを育てる運動になってくれたらと思いました。

寺子屋いちみん室長　高取さんのお話

「何人参加してくれるかな？」という不安な気持ちでスタートしたが、毎回８～12名前後の子どもたちの参加と聖徳学園の学生さんを含んだ学生スタッフで順調に進んでいる。子ども達の「わかった！」という笑顔やスタッフの「楽しかった!!」という笑顔が本当に嬉しい。これからも多くの笑顔でいっぱいにしていけたらと思っている。

岐阜聖徳学園講師　中島さんのお話

学生14名を参加させていただいている。学生たちは一様に「楽しかった！」と笑顔を見せて帰っていく。と同時に子どもたちが抱えている困難さ（たとえば学習言語、学校文化に関する困難さ）に気づき、毎回１時間半という短い時間のなかで自分に何ができるのか、戸惑い、難しさも実感しているようだ。学生たちに貴重な経験を与えていただいていることに大変感謝している。



なお教室は毎週月曜日・木曜日（年末年始・お盆・祝日等除く）午後５時から６時30分まで木曽川公民館で行われています。日本語を母国語としない日本語教育が必要な外国人の児童・生徒であれば、誰でも参加できます。

市の国際交流協会0586-84-0014までお問い合わせください。（橋本、小川）

世界のあそびシリーズ　スペイン編

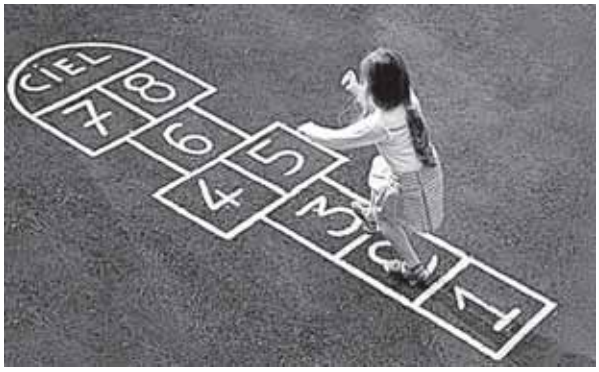
今回は第61号に登場していただいたフェルナンドさんにスペインの子供の遊びを紹介してもらいました。驚くことに日本の遊びとほとんど同じものがあります。子どもの遊びは万国共通というところでしょうか。（橋本）

www.elbloginfantil.comから転載

「ブロ」（スペイン語でロバという意味です）

２つのチームに分かれ、1チームが馬になって連なり、もう１チームがその上に乗っていきます。全員乗っても馬が崩れなければ馬チームの勝ちです。乗るほうは馬が崩れるように、なるべく同じところに乗ろうとします。でも同じところに乗ろうすると、バランスをとるのが難しく馬から落ちてしまうこともあります。落ちてしまった時点で乗るほうのチームの負けになります。

「エル　パティ」（女の子がよく遊びます）



www.diarioc.com.arから転載

道路にチョークや石で１～８の数字を書きます。まず１の四角に石を投げます。１を飛び越えて、２～８まで片足とびで進みます。８までいったら、また元の場所に戻ってきますが、その時１の石を拾います。成功したら２の四角に石を投げ、１、３、４…と２を飛び越えて８まで行って戻り、また２で石を拾って元の位置に帰ってきます。順番の数字に石が入らなかったり、石の入った四角を踏んでしまったりすると失敗で、次の人に交替します。遠くの数字は入れるが難しいので、上手に石を投げ入れるのが重要になります。

尾西生涯学習センター　2.18

国際理解クッキングセミナー　～イラン文化に触れよう～

私たちにとって未知の国、イスラム教国イランについて、一宮在住で納豆が大好きなイラン出身の仁キャリムさんに教えてもらいました。

国土は、日本の４倍。砂漠だけと思われがちですが、富士山に似た山やスキー場もあるとのこと。実際にキャリムさんが現地で撮影した写真も交えて紹介され、多彩な風景にびっくりです。

文化面では、世界最古のメソポタミア文明の貴重な遺跡が、たび重なる大地震の被害で、修復もされずに、風化により朽ちていくのが辛いと語られました。有名なペルシャ絨毯は、子どもの時から織り方を習って覚え、大切な文化として受け継がれているとのこと。大変手間のかかるものであり、製作に長時間かかり高価であると教わりました。また、ペルシャ語の「ちゃらんぽらん」は日本語と同じ使い方で、そのことに驚いたとのこと。シルクロードで結ばれていた遠い国との意外な一致にロマンが広がります。

食文化も豊富で、主食であるパンは、焼き立てにこだわって、朝食であってもパン屋に買いに行くほど。イラン国内では様々な品種のパンが作られており、地域ごとに特徴があるそうです。

その後、キャリムさんの指導のもと、イラン料理であるホレシュテバデムジャン（ナスとトマトの煮込み）とサラダを作り美味しくいただきました。

イランは、コーヒーを飲まないお茶の国。右の機械で沸かしたイラン風紅茶も味わいました。（佐野）

エリ＆ジャックスのコラボセミナー

多文化共生ってな～に？

尾西生涯学習センター　6.20／6.27

第１回目のテーマは 話し合おう！

「理解し合って仲良くする」「相手の文化を認め合う」・・・最初に多文化共生とは何かを言葉から想像した時に出てきた意見です。

それからスペイン人作家が書いた三つ子キャラクターの絵本を読んで、人は異文化と出会った時に「自分の知らないこと」や「違い」を「間違い」と思ってしまうことがあり、それが差別につながることを考えたりしました。

また、ニュージーランド出身のジャックリーンさんは、特産品のキウイフルーツが苦手だとか、スペイン出身のエリザベスさんは日本に来て初めてフラメンコを見たという話から、イメージだけで判断することの危うさを話し合いました。

この日参加して見つけたことは「多文化共生」のほんの一面に過ぎないかもしれません。また「多文化共生」の社会をつくるために何から取り組み、どのように進めていくかも正解のない難しい問題です。

自分のルーツを大切にして、毎日の生活に少しずつ取り入れていったら、何年後かにはまた違った答えが出てくるかもしれません。

第２回目のテーマは Shall we DANCE?

16世紀のヨーロッパの探検家は、太平洋の島やアフリカの人々に出会ったとき、自分たちの踊りとの違いにびっくりしました。

ダンスは国の歴史や宗教と深く関わっていて民族性がでています。ダンスをすることで、その国の文化の特徴を体験することができるとの話があり、実際にスペイン　カタルーニャ州の舞踊サルダーナと、アイルランドからの移民とともにニュージーランドにも広まったアイリッシュ・ダンスを踊ってみました。

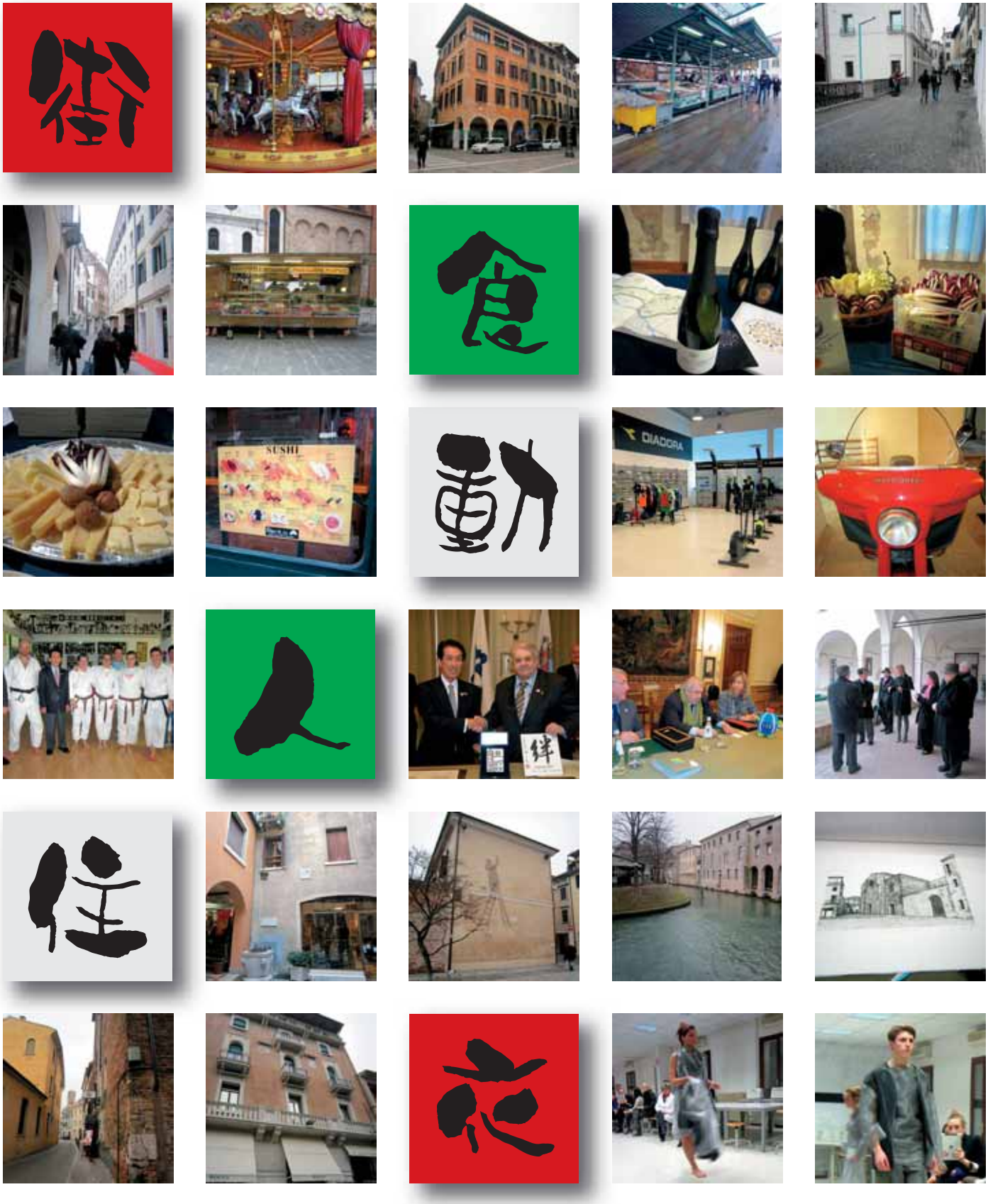
二つのダンスとも誰でも参加でき、ビールを飲んで陽気に踊ることが多いとのこと。笑顔で楽しく踊ることができました。

自分の先祖とつながるために、親族が集まるとみんなで踊り出すと聞き、日本各地で行われる盆踊りに似ているなと思いました。（伏原）

一宮市国際交流員ライダー・ジャックリーンさんと清須市国際交流員ヘア・サストレ・エリザベスさんのコラボセミナーで、別地域の国際交流員が一緒に講座を行うのは初めてのことです。こうした試みによって、より多くの国や人と触れ合える機会が増えるのは、これからも楽しみです。

wai-wai-a フォトサロン

一宮市と友好都市を結んだ歴史ある美しい街トレビーゾ市はこんな街です。



by You都市

一宮市国際交流協会ボランティア
グループリーダーミーティング

木曽川庁舎　6.3

協会では、９つのグループが独自の活動を続けています。お互いの理解を深めるために以前開催していた会議を復活させました。

会議は、事務局から昨年度の活動実績と今年度の事業内容について、スライドを交えて報告を受けました。自分の所属グループの活動は分かっていても他のグループについては知らないものです。

グループ活動をリーダーから紹介してもらい、全参加者にボランティアを始めるきっかけを語ってもらいました。海外生活経験から、今の日本を見たときの危機感から日本のために何かがしたいとの思い、外国での親切がきっかけ、子どものためにも外国の人と触れ合える機会が増えればいいなど多彩な思いがあふれていました。

平日開催のミーティング１回目でもあり、結論を求めない、フリーミーティングの場として進みました。その中で、日本語ひろばジュニアが進めている外国籍の生徒の放課後の日本語教室「寺子屋いちみん」の問題点と解決策を話しあい、ボランティア不足を解決するにはどうすればいいか意見を出し合いました。

最後に、これからも日本語教育問題、交流事業、多文化理解、情報発信など多方面の意見を話しあう場として会を続けることを確認しました。この会を通してグループ間のコラボ企画が増え、一宮の国際交流が盛り上がれば良いですね。（佐野）

i-ビルでボランティア交流会

i-ビルシビックホール　2.3

真新しいｉ-ビルのシビックホールでボランティア交流会が行われました。あわせて、イタリアのトレビーゾ市との友好都市提携の記念事業として、講演会と音楽観賞会も開かれました。

交流会ではクッキンググループ手作りのイタリア料理が並べられました。どれをとっても美味しい料理に会話が弾みます。デザートのティラミスはトレビーゾが発祥の地だと聞き驚きました。講演会ではミラノ市在住35年の中井美訪子さんにスライド見せて頂きながら、北イタリアの文化などについての話がありました。音楽鑑賞会では、一宮市在住の斉藤麻記さん他によるオペラのミニコンサート。参加者は、きっとイタリアに行きたくなったことでしょう。イタリアづくしの交流会は、例年よりも20名ほど多い80名以上の参加でした。これはｉ-ビルの効果ですね。（かりねこ）

地球あっちこっち

全国大会3冠を成し遂げた大成中学校女子柔道部の3年生5人が、友好都市を提携したトレビーゾ市を訪問しました。その様子を顧問の大石先生に寄稿していただきました。

友好都市 TREVISO訪問

大成中学校教諭　大石公平

2013年３月７日～８日、私たちは友好都市提携を結んだばかりのトレビーゾを訪れました。私たちが目的としたのは

１．柔道を通じて地域の国際交流に貢献する。
２．広い視野で人生を歩む国際感覚を身につける。
３．海外のJUDOを身をもって感じる。

以上の３つ。ワクワクドキドキの訪問でしたが、トレビーゾ市の皆さんはどこでも大歓迎してくれました。

＜「JUDO TREVISO」道場　訪問＞

50年以上の歴史ある柔道場で合同練習

イタリア、トレビーゾの名門道場。大人から子どもまで100名を超すクラブチームです。この日は私たちの訪伊を聞き近隣の町からも同世代の女性柔道家が集まり、共に稽古をしました。16時からの幼児クラスから大人の部まで参加し、練習を終えるころ時計の針は21時をまわっていました。

世界中どこへ行っても「礼」に始まり、「礼」に終わる。

＜ステファニーニ国立中学校　訪問＞

トレビーゾの中心部にある国立中学校。ここで、私たちはたくさんの生徒の前で演武をさせていただきました。間近で柔道を見るのは初めてという人が多く、大変盛り上がり歓迎していただきました。

学校挙げての大歓迎！

私たちは日本文化でもある柔道を披露し、ステファニーニ中学校からは歌と演奏をプレゼントしていただき交流しました。

＜トレビーゾ市長　表敬訪問＞

トレビーゾ市、ゴッボ市長を表敬訪問。私は「柔道を通じて一宮市とトレビーゾ市の友好関係を深められたら嬉しいです。」と伝え、市長は「経済を含め幅広い分野で交流を深めましょう。」と話されました。ゴッボ市長の明るく気さくな人柄に支えられ、終始、なごやかな表敬訪問となりました。

トレビーゾ市長（中央左）と記念写真

二日間という短い時間での交流でしたが、谷市長が友好都市調印式で話された「人と人との結びつきを大切にした交流を通じて、お互いに発展し、次代を担う子どもたちに輝かしい未来を残しましょう。」との考えに沿った訪問となりました。

私たちは幸運にも柔道という日本発祥の武道・スポーツを志し活動しています。短い中でも確実に中身のある交流をすることができました。

今回の訪問を経験し、これから未来に向かって国際交流の重要性を認識し、国際交流都市の新たな可能性を模索していくべきだと感じました。私たちひとりひとりにできること、なんでもいいと思います。日本全国に国際友好都市をもつ市は多く存在しますが、形だけの友好にならず、日本とイタリア、一宮とトレビーゾが幅広い分野で共に発展する友好活動を実行し、５年後、10年後と確実に成果の表れる活動になることを期待し、私自身も何かその力になりたいと願います。

おとなりさん

ジラル・ヤシンさんは、日本人の奥様と結婚し、一年ほど前に、モロッコから日本にやってきました。モロッコから見たら、日本はとても遠い国で、まさか自分が住むようになるとは思っていなかったそうです。

日本については、インターネットやYouTubeで、いろいろ調べておいたので、来日してもそれほどカルチャーショックはなかったそうです。二宮金次郎の像のイメージから、日本人はみんな本が好きで、難しい本を読んでいるものと思っていたら、けっこう漫画を読んでいて驚きましたと笑っていました。

モロッコはイスラム教の国ではありますが、戒律は個人の信仰によるところが大きいので、特に都会では、女性も普通にスーツで出歩き、外国人観光客用のバーもあるのだとか。とはいえ、ヤシンさんはイスラム教徒として、豚肉は食べないし、他の食肉でもハラルと呼ばれる許されたものを、インターネットで注文して食べています。また日本人が「八百万の神」をあがめる感覚はよく理解できないと言っていました。

ヤシンさんは、片言の日本語も含めて全部で6ヶ国語が使えます。モロッコでは、家庭でモロッコ方言のアマジール語を話し、小学校では公用語のアラビア語を習い、植民地だった関係でフランス語も習い、高校で英語かスペイン語を選択するそうです。日本人の私から見たらたいへんな気がしますが、普段の生活でも使うため、自然に多言語をあやつれるようになるみたいです。

一宮は静かで好きですと言っていたヤシンさん、夏は乾燥するモロッコに比べ、とても蒸し暑くなる一宮市の気候に耐えて、この街のグローバル化に力を貸してくださいね。（日野）

iiaイベントinformation

10/19(土)～20(日)本町商店街周辺

イタリアフェア2013

イタリア人演奏家によるステージや、イタリアンスイーツやイタリア料理の販売など、イタリアを体感できるイベントが満載！

11/2(土)木曽川庁舎周辺

ふれあいウォーキング

愛・地球博フレンドシップ国出身の外国人と一緒に、史跡巡りやクイズをしながらウォーキングしたり、外国料理を味わいましょう！

10/26(土)～27(日)尾西庁舎周辺

びさいまつりiiaふれあい体験ブース

国際交流員やiia親善ボランティアによる、楽しい参加型体験プログラムを用意してお待ちしています！

一宮市国際交流協会の公式Facebookページができました！
いいね！をお願いします。

https://www.facebook.com/iia138

編集後記

この一宮でイタリアとの繋がりが広がってきてとても嬉しいです。チャーオ！ボンジョールノ！と言う響きは元気いっぱいで大好きです。もちろんイメージとは違う部分もたくさんあるはず。こんなイタリア、あんなイタリア、いろんなことを知りたいです。でも、やっぱり、同じ人間を感じられる人との出会いが一番だな・・と思います。（ハッティ）

発行　2013年7月　編集　一宮市国際交流協会　〒493-8511　一宮市木曽川町内割田一の通り27番地　TEL0586-84-0014

この「かけはし」は、協会ボランティアにより取材、編集されています。
協会に関する情報は、ホームページをご覧ください。【HPアドレス　http://www.iia-138.jp/】
ご意見・ご感想などお待ちしております。【メール　iia-138@iia-138.jp】